



この日は、途中から愛知池の運動公園を通過してヒノキバヤドリギを見に行きました。11 時頃周回路に戻ってきたら、エンジン音が響いてきました。展望台に立つと池面が波立ち水も空気も冷たい中で、水難救助の訓練をやっていました。写真には映っていませんが猿投山の右手には遠く恵那山のが姿が見えました。



**霜柱** 踏み固められていない場所で、地上が氷点下、地中は 0 度以上であるときに地中の水分(液体)を吸い上げながら凍ったのです。町中ではほとんど見られなくなりました。踏むとさくさくという音がしました。



**霜** 霜柱は立つと言います。霜は降りると言います。霜は空気中の水蒸気(気体)が氷になり草などにくっついてできたものです。



**ホオジロ**

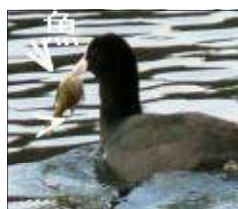
のどを伸ばして声高らかに囀っていました。春が近いことを感じさせます。



**オオバン**

水際で死んだ魚をついばんでいました。水草を食べながら泳いでいたり、岸に上がって草を食べていたりする(下右)のを見かけます。

下左は魚を捕まえたところですがカワウのように一気に飲み込むことはできないようです。



**ツグミ** シベリアから来た冬鳥で、囀ることはありません。口をつぐんでいるところからツグミと付いたと言われています。木の実がなくなる頃、地上を跳ねながら餌をとる姿が見られます。



ヨコヅナサシガメ

集団で越冬している幼虫です。右下が成虫。頭部は細長く、折り曲げたくちばしが見えます。外来種で、肉食性のカメムシです。



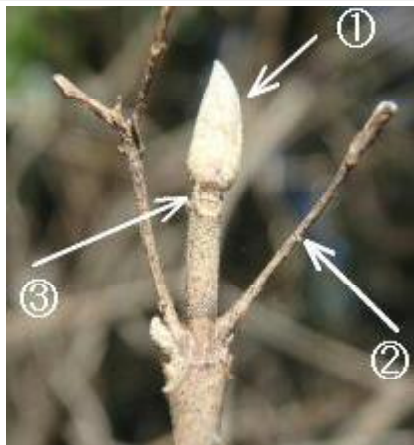
ヤマガラ

冬に、メジロやエナガ、シジュウカラなどと群れをつくり移動するのが見られます。ツツピーツツピーなどとゆっくりした囀りが特徴です。



イソノキの冬芽(上)と葉痕

顔(葉痕)の目鼻は維管束痕(3個)で、葉と枝をつなぐ通り道(水や養分の)のあとです。



ムラサキシキブ

万歳をしているように見えます。①が冬芽、②は紫色の実が付いていた枝、③が葉痕(維管束痕は1個)です。



ヒノキバヤドリギ

葉が小さく退化していますが、茎が扁平で光合成もしながらモチノキ科などから養分を奪う植物です。同じ株に雄花と雌花ができます。



地衣類の一種？

ケヤキの幹に直径数ミリの固まりが付いていました。ツブノリ科の地衣類に似ていますが情報不足で不明。

**植物** フサザキスイセン、ウメ、シキザクラ、サザンカ、ネズ実、トベラ実、テイカカズラ実、センダン実、ヒノキバヤドリギ、蔓(ヤマノイモ、テイカカズラ、スイカズラ、ミツバアケビ、カラスウリ)、ウラジロ新芽、冬芽(ヤマザクラ、ネズ、コバノミツバツツジ、イソノキ、アカメガシワ、イソノキ、ムラサキシキブ、ニセアカシア、セイヨウニンジンボク、ウラジロ、サンゴジュ)、**昆虫** みの虫(クロツヤミノガ?)、アミガサハゴロモ外来種産卵痕、ムネアカアワフキ巣、セミの羽化殻(ツクツクボウシ)、**蜘蛛** ジョロウグモ卵のう多数、**鳥、その他** ミサゴ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、スズメ、メジロ、シジュウカラ、エナガ、ヤマガラ、\*カワラヒワ、ツグミ、コゲラ声、キツツキの開けた穴、カワウの巣多数、カルガモ、オオバン、カンムリカイツブリ群、ホシハジロ、キンクロハジロ、不明の虫瘤(コナラの殻斗)、霜と霜柱、菌類(カワラタケ、マツゲゴケ、モジゴケ、ツブノリ科の一種?)

次回:3月14日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円